

第38回 北海道乳幼児療育研究会
分科会 1 保育

テーマ

「ある親子のそだちの物語から、現場からの視点」

2024年10月 6 日

N P O 法人にしのみさと

中村孝博

はじめに

野島氏への感謝

1 育ちの物語の視点

(1) 保護者の育児の歴史への寄り添い

(2) 子どもの育ちに応じた保育内容

2 支援の視点から

(1) 幼児理解

- 野島氏の幼児理解は科学的
- 野島氏の観察力
- 野島氏の試行錯誤と実践力

(2) 具体的な支援方法

- 「手伝って」と言える

3 保育者の視点から

(1) 寄り添うということ

- 想像力

(2) 経験年数

- 保育者が保護者の気持ちまで思いを寄せていくには時間がかかります。

(3) 価値観、保育観、研修

- 園内研修、園の建学の精神、保育観

(4) 保育の変換

- 2007年4月から特別支援教育が始まる。2014年2月に障害者の権利に関する条約が効力を発効。

(5) 保育内容や行事の見栄えと成功

- 保育は誰のために行う？ 頑張っても保育者の期待に応えられない幼児もいる。

(6) 保育者の人間関係、同僚性

- お互いの保育観が尊重できないと人間関係も不安定になります。

(7) 労働環境、保育者のメンタル、支援者の支援

- 支援者の支援が不十分だと保育者のメンタルは不安定になります。

4 幼児、保護者、保育者を取り巻く環境から

(1) 園の保育方針とのミスマッチ

- 園の保育方針と幼児の特性

(2) 園の基礎的環境整備と合理的配慮

- 園の環境整備が整っていない場合、保育者一人一人の努力や負担が多くなる。

(3) それぞれの信頼関係、保育者もミスをするが見逃してもらえないことも

- 保育者は完璧な人間ではありません。
- ネガティブな評価は保育者の自信を失います。

(4) 他の保護者からの要望

- 対応に時間をとられる。保育者のストレスになる。

終わりに

保育に正解はありません

同僚性→お互いの保育観を尊重して、問題解決に向けて議論
できるか